

狩野元信筆
足利式釋迦
禽鳥圖

狩野元信畫きし所の圖に釋迦禽鳥圖三幅對あり。東京帝室博物館に陳列せらる。紙本墨畫にして各縱二尺九寸四分、横一尺三寸三分あり。就いて之を見るに、中幅は釋迦如來が幽寂なる巖下に於て靜坐禪定を修する所を圖し左幅は數羽の小鳥若上竹叢の蔭に嬉遊せる様を寫し右幅は水邊の孤鶯惰眠を貪るの狀を描寫せり（卷末附圖第二十九圖參照）。元信は正信の子にして實に稀世の名手なり。狩野派の流義も彼によりて確立せられたりといふべし。彼の畫技は父よりも遙かに勝る。青藍より出でて藍より青しとは即ち彼のことなり。正信の畫は柔和なりしが元信に於ては更に遒勁なる趣に富む。然れども雪舟の如く懸腕直筆磬牙なる線にあらず、其描線は常に鋒鋒を現はし、筆を抜くにはひとたび之を止めて然る後に抜くを常とせり。故に剛健なると共に又一種いふべからざる溫順なる趣あり。元信の墨畫は雪舟の潑墨山水等とは頗る其趣致を異にし繪畫としては寧ろ圓滿に發達せしものといふべし。茲に云ふ所の釋迦禽鳥圖に於いても其品格の一般を味ふべく、又清淨なる玩賞に價ひすべきも

元信の筆致

のなるを見るべし。

元信筆足利
式釋迦達磨
臨濟畫像釋迦達磨臨
濟畫像の由
來

元信の畫に又釋迦、達磨、臨濟畫像あり。紙本墨畫にして縱一尺五寸八分、横二尺二寸八分あり。京都紫野大徳寺塔頭聚光院之を藏す。今其圖を見るに釋尊は右手に花を拈して巖下に端坐す。前方には達磨慧眼を開いて天の一方を睨み、泰然自若として葦に乗じて江を渡る。對岸に於ては釋尊と相對し右手に鍬を執りて松樹を手植せるの一僧即ち臨濟あり。今古傳を按ずるに世尊在世の時嘗て靈山會上に於て花を拈して衆に示す衆皆其意を領せず。獨り摩訶迦葉之を見て破顏微笑す。世尊即ち曰く吾に正法眼藏涅槃妙心實相微妙の法門あり。摩訶迦葉に附囑すと、爾來的々相承二十八傳して菩提達磨に至る。達磨其師般若多羅の遺囑によりて支那に來り、梁の武帝に謁して廓然無聖と喝破したるも、其玄旨を會せざるを知り、葦を折り之に乗じて江を渡り、魏に往き、嵩山少林寺に止りて壁觀すること九年、一人の法器神光を得て不立文字教外別傳の宗旨を傳ふ。それより四傳して慧能大師に至り、更に五傳して臨濟義玄禪

師に至る。禪師は黄檗希運に參じて拈華微笑の奥旨、達磨西來の的意を領得し、遂に臨濟の一宗を開創せり。禪師嘗て黄檗希運と與に杉松を栽ゆ。黄檗曰く深山裏に許多の樹を栽ゑて何かせん、師曰く、一には山門の爲に境致を添へ、二には後人の爲めに標榜とならん。黄檗曰く吾宗汝に至りて大に世に興らんと。此圖は即ち此傳説的三故事を一幅の畫となして臨濟宗の由來を示せる宗教畫なり。

尙又元信のものせしものに釋迦、孔子、老子の三聖を圖したるものあり。紙本墨畫にして東京市高田慎藏氏の珍藏なり。釋迦は洗足にして出山の相をなし、孔子、老子又各自特異の服裝をなす。疎放なる墨線を以てよく三聖各自の特相を示せり。抑も三聖圖の由來を按ずるに支那にては既に唐朝に於てありしが如しと雖も、我が朝にては正信、元信あたりの畫きしを以て嚆矢となすべく、足利時代以前にはあらざるべし。

清凉寺栴檀釋迦緣起畫卷も亦元信の畫く所にして紙本着色畫なり。山城國嵯峨五臺山清凉寺に藏す。此緣起繪卷は即ち吾人が既に第二章唐式

元信筆足利式釋迦孔子老子畫像

清凉寺の釋迦緣起畫卷

釋迦像の遺品中に於て述べたる所の清凉寺釋迦像の傳來と其靈驗利益とを繪詞にて現はしたるものなり。其詞書は青蓮院尊應准后の芳翰にして繪は即ち元信の筆に係る。每卷詞書繪と隔段となれり。原本に就いて見るに群青緑青等を用ゐ賦彩頗る濃厚にして其筆致又温順なり。一見土佐畫の風致を存せり。宜べなり元信は土佐光信の女婿となり、其妻より土佐派彩色の極意を學べり。狩野派の彩色は實に彼によりて定められたり。京都禪林寺にも亦元信の釋迦文珠普賢畫像あり。紙本着色畫にして斷岩絶壁の中央に釋尊端坐し、左右には文珠普賢を配せるものなり。頗る玩賞的なるものなり。

元信筆足利式釋迦文珠普賢畫像

第四節 足利式釋迦像と時代の風潮

吾人は足利式釋迦像の遺品に於いて當代以前にはあらざりし所の様式を見たり。即ち釋迦に孔子老子を配して一幅の畫としたるもの、兩脇に山水花鳥の幅を添へて釋迦山水花鳥の三幅對を作りたるもの、或は又苦

行の釋迦、出山の釋迦等を圖するに於ても、其背景に頗る意を用ゐたるを見る。釋迦像以外のものに於いても觀音像を風流化して現はしたるもの、例へば蓮舟或は鯉に乗じて海を渡れる觀音、或は又魚籃、水月觀音の如き、又は三教吸酸圖の如き、又は虎溪三笑圖の如き之れなり。今此等の釋迦像並に其他の畫圖を通覽するに純粹なる佛教畫或は宗教畫と云はんよりは寧ろ玩賞的宗教畫といふ方穩當なるが如し、吾人少しく當時の風潮を述べて斯くの如き畫題の由りて來りし所以の偶然にあらざるを知らんと欲す。

さて當時の風潮を知らむには足利將軍義滿と義政を説かざるべからざるが、之を一貫して社會の風尚を動かせしものは、即ち僧侶なり。既に云へりし如く、禪宗は鎌倉時代より室町時代へかけて武士の喜びし宗教なり。従つて此二時代の思潮風致を司りしものは禪僧なり。而して禪宗は又儒教をよく攝取せり。是れ其始め支那宋朝に於て程朱の學起り、陽に佛教を排斥し、陰に儒佛を折衷せしものなりしが我が邦鎌倉時代末

禪僧儒教を講ず

三聖圖の起源

より此理性の學は禪僧の喜ぶ所となり、足利時代に及びては、禪僧にして儒教を講せしものさへあり。彼の正信、元信等の畫に釋迦、孔子、老子三聖の圖を見るが如きは即ち斯の如き思潮の産物といはざるべからず。尊氏を始め歴代の足利將軍多くは皆文藝に長じ、美術的嗜好を有せしが。義滿の時に至りて社會の鎮靜に趨くや一時に驕奢を極め美術の勃興を來せり。義滿も勿論繪畫の嗜好を有し、殊に墨畫を好めり。由來足利將軍と文藝美術との關係深きものありしが、義政に至りて最も著しきものあり。

足利義政の奢侈と藝術

義政は奢侈にながれて風流を事とし、多藝好事殆んど爲さざる所なかりき。彼が風流韻事、一代を風靡せしも亦偶然にあらず。社會平穩ならざるに彼早く職を其子に譲り、東山に別業を營みて東求堂と號し、文明十五年移りて之に居る。堂東に四疊半の茶室を作り、同仁齋と名づく、茶室四疊半の濫觴なり。繞らすに林泉を以てし、山に據り野に臨み泉石布置自然の妙あり。今に至りて天下有數の名園と稱す。銀閣其内にあり、

北山金閣に倣ひ銀を貼せんと欲し未だ果さずして薨す。義政此處に隱遁し禪學を修し、茗香を愛し、茶人珠光等と公郷を會し、笑談嬉遊す。又畫師藝阿彌を師として畫を學び筆墨優に逸境に入れりと。斯の如き遊興の爲めに多の名畫圖幅及び珍器を要せり、即ち義政吳道子以下百五十餘人の名蹟佳作、或は元明の珍器を聚めて之を鑑賞せり。其の室内裝飾のとに至りては相阿彌をして之に當らしめたり。義政がかくの如き目的の爲に蒐集せし珍寶の目錄君台觀左右帳記にあり。即ち此記は能阿彌が大内政弘に進めたるものにして、畫の目錄と共に座敷の飾、茶湯棚の飾、抹茶壺の圖形等義政の時用ゐしものを皆書き載せたり。斯の如く畫幅は點茶聞香の際書院の裝飾として要求せられしかば、佛教畫にあらざる繪畫も懸幅として壁間に展觀すること始まれり。されば佛畫に於ても既に見たるが如く山水花鳥を配し、或は背景に意を用ひて一種の雅賞すべき釋迦像の畫幅を作り出せしことの偶然ならざるを想ふべし。然れども斯の如きは是れ禪餘の清淡高遠なる一面にして、他の一面には北山の金閣

君台觀左右帳記

寺或は室町に造りし所謂花御所の如き、燦爛たる裝飾に華美の極を盡し、又佛像の裝飾に於ても頗る金色の美を致せしは、清淡なる風尚に反せるが如きも是れ即ち當時豪奢の風の映發せるもの異むに足らず。かくて足利將軍累代の奢侈は終に我が史上に嘗て見ざりし闇憺たる所謂暗黒時代を以て長へに終れり。

第六章 德川式釋迦像

德川氏の治世約三世紀間は我が史上最も平民的文藝技術の蔚興せし時代なり。是れ吾人が茲に喋々するまでもなく、讀者の既によく知れる所なり。さて德川氏の天下を統一するや、世を舉げて形式的となせり。德川氏外教を禁じ、佛教は寧ろ強制的に盛なりしと雖も、總て古例古格に準じて新意を出すことなく、又其佛像彫刻の如きも、多くは、各戸に要する寸尺のものにして、其様式は前代と異らざれども、唯舊套を守り、踏襲的に流れて其技能衰へたり。又佛畫に於ても、其最も盛力ありしは

德川時代の平民藝術の蔚興
德川時代の形式的藝術

徳川時代に於ける狩野派

釋迦像の研究

狩野派にして、徳川將軍の保護を受くること甚だ厚く、當時は狩野派にあらずんば畫家にあらざるが如き觀を呈せり。然れども狩野派の畫家たる山雪、山樂、探幽等に於て天才を見しと雖も、其他は概ね舊格を墨守して敢て新意を出すものなく、其畫く所の圖は總て古粉本に據らざればものせざるに至れり。

徳川時代既に斯の如し、吾人徳川式釋迦像の爲に一章を置きしと雖も節を立て、類を分ちて多く論すべきものを有せず。されば其一二を擧げて一般を示すに止めぬ。

東京帝室博物館出陳徳川式木彫釋迦坐像

東京帝室博物館に出陳せる股野多美之助氏所藏の木彫釋迦坐像あり。

金箔押なり。當代佛像中の寧ろ上作にして黃蘗派の禪宗によつて輸入せられし明代彫刻の豐滿なる風貌を具へたる代表的作品と見るべき者なり

(卷末附圖第三十圖参照)。

徳川式佛畫探幽筆徳川羅漢像

佛畫に至りては前代よりも一層玩賞的となれり。即ち伯爵溝口直正氏藏絹本淡彩の探幽筆釋迦十六羅漢像を見るも甚だ鑑賞的なるを知るべし。

徳力善雪筆出山釋迦左右寒山拾得像

其中幅出山の釋迦は比較的謹嚴に畫かれたるも、羅漢像の如き各自其特性を發揮して頗る飄逸を極む。又徳力善雪の筆にして半身出山釋迦左右寒山拾得の圖あり、釋迦像は頗る莊重なるも、左右寒山拾得の面貌は甚だ洒落の趣に富む。善雪は狩野山雪の衣鉢を受けたるものなりといふ。

渡邊華山筆出山釋迦像

又文人畫家として知られたる渡邊華山の畫きしものに、出山の釋迦像あり。其圖様は勿論足利時代以來の様式に出でしと雖も、頗る新意を出せしものなり。載せて國華第百號にあり。今之を復寫して卷末附圖第三十一圖に示せり。華山は儒者なり。其釋迦出山憔悴の相を寫すに頗る意を用ひたるを見るべし。

各戸の佛壇に安置せらるゝものゝ外は概ね斯の如く鑑賞すべきものにして、多くは出山の釋迦なり。既にもいへる如く、當代は頗る平民的藝術の發達せし時代なれば、其藝術の種類甚だ多様にして光琳派、浮世繪派の如き平民的の繪畫大に起れり。而して多少藝術的價値を有する佛畫の如きは、僅かに一部人士の賞鑑せし所にして之を以て時代の思潮、風

尙を視はむとするは、餘りに薄弱にして試むべからず。

第七章 結論

以上前後兩篇に於て章を分ち、節を置きて論じたる所を総合して考ふるに、釋迦在世の時既に彼の像ありしや否や今日にして之を徵すべきの遺物なし。現に遺存せる最古の釋迦像に徴して吾人の説を立つれば、即ち前篇に論じたるが如く、釋迦在世の時は未だ其像あらざりしが如し。釋迦滅後數百年、阿育王時代に至りて漸く種々なる標象を以て彼を其藝術上に聯想せしむるに至れり。即ち菩提樹を以て、輪寶を以て、三叉戟を以て、卍字を以て、塔を以て、或は又佛の足跡を以て、之を聯想せしめたり。蓮華、象等は又彼等が好んで其彫刻に現はせし所にして、蓮華上に象或は人物を安置せる如き、後世佛菩薩蓮座の濫觴を示せるあり。而して其標象記號及び其他佛教彫刻の内容たるや、多くは印度古來の迷信、若しくは風俗に由來せり。ブタガヤ、バルフート、サンチ、等の彫刻は

即ち其遺物なり。やがて佛教健陀羅の地に入るや、希臘彫刻の影響を受け、茲に始めてアボロ式の釋迦像を作り始め、記號崇拜のこと失せて、釋迦の一代記に關する事柄を彫刻するに至りて、釋迦の肖像を崇拜するに至れり。次いで健陀羅式佛像の東漸せしものは、西域を経て北魏に入り、更に百濟を経て日本に來り、遂に我が推古時代に於て北魏式釋迦像を見るに至れり。南せるは印度内地に入りてアヂアンタの壁畫の如きを産むに至れり。かくて我が朝隋唐と直接交通を開くや、世を擧げて唐風模倣時代たらしめ、奈良朝に至りて其模倣愈極盛に達せり。平安朝に入りては、遣唐使廢せられ、日本趣味の發揮を促し、遂に藤原式藝術を産めり。さて、藤原式藝術たるや、即ち日本趣味を遺憾なく發現せし公卿美術とも云ふべきものにして、實に我が藝術史上、前後、殆ど其類例を見ず。

次いで鎌倉時代に入るや、宋元の影響を受け、武人政治の世となり、其藝術に一種の武士的氣風を興ふるに至れり、足利時代に及び始めて宋

元墨畫の發展を見るに至り、鑑賞的意義を現し、佛畫に山水花鳥の類を配するに至れり。最後に徳川期に入りては、平民的藝術の勃興と共に其佛教藝術も終に俗了するの止むなきに至れり。

釋迦像材料
の變遷

今釋迦像の變遷を其材料によりて少しく觀察する所あらむに、印度健陀羅彫刻に於ては、石彫の遺物のみ發見せられ、而して其餘波を支那石窟寺に留めたり。然れども我が推古時代に輸入せられたる北魏式釋迦像の遺物には石彫佛の遺存せるものなし。今之を按ずるに支那は古來夙に鑄造術の進歩せし國にして佛教の支那に入るや、其佛像を多く鑄造せり。今日吾人の所謂六朝佛は、其ありし昔を語るものなり。尙又當時は鏡鑑の背面にさへ佛像を鑄出せしが如し。即ち近くは明治四十二年七月我が備中國都窪郡庄村の古墳より發見せられし青銅鏡は純然たる北魏式の佛像を其背面に有す。之れに徴するも六朝以來佛像鑄造のことの如何に盛なりしかを察すべく、我が推古時代に鑄造術の興隆せしも其餘勢の朝鮮或は支那より直接我に入れるが爲めなるべし。

六朝佛を有
する我國發
見の鏡鑑

次いで繪畫には印度内地のアチアンタ其他の岩窟殿に、又我國に入りては、法隆寺、或は平等院等に壁畫を殘せり。而してアチアンタ壁畫は現存せる最古のものなるべきが、其以前の壁畫は如何なるものなりしや容易に知るべからずと雖も、當時の壁畫たる既に著しき發達を経しものなるは、讀者既に之れを知る。されど我が推古朝以來天平期は彫刻術の最も發達せし時代にして佛像以外僧侶の肖像をも彫刻するに至り、我國に於ける彫刻全盛期なり。藤原期に於ては彫刻術衰へ、濃麗優美なる絹本彩色畫に於て非常なる發達をなし本書卷首に示せる神護寺釋迦坐像の如きを製作するに至れり。鎌倉時代に入りて再び彫刻術盛なりと雖も、是れ一時にして多くは絹本著色畫を出せり。然れども其様式は即ち宋元の佛畫に學びたるものにして一種の霸氣を存せるものなり。其末期に至りては次第に淡彩のものを好みて筆意に重きを置くに至りしが、足利時代となりては宋元の墨畫愛せられ、其筆端に現はれたる精神を嬉び、始めて紙本墨畫の隆盛を來し、而して全く鑑賞的の佛畫を出すに至れり。

釋迦像に施
されたる彩
色の變遷

最後に徳川時代に入りては、足利時代の様式を俗化せしに過ぎず。

吾人は最後に釋迦像に施されたる彩色の變遷を考ふるに、健陀羅式釋迦像には嘗て彩色を施したるものなるや否や今日之を知る能はずと雖も、印度壁畫に於ては赤褐色の質素なる彩色を其衣に施し、支那六朝時代に入りては石刻の者は總て黄金色を以て壯嚴せられたり。是れ今日遺物に徴して明かなる所なり。而して鑄造佛は鍍金せられ、我が欽明朝以來輸入せられたりし釋迦佛も即ち鍍金せられし者なりしなり。爾來我が國に於て製作せられし釋迦像は鑄造木造たるを問はず、多くは金色を以て裝飾せり。藤原時代に入りては、絹地に金泥截金等を應用し肉體及び其服裝に黄金美の極を盡せり。次いで鎌倉期に入りては研麗なる朱色を以て其衣を着色せる者あり。然るに鎌倉末以來禪宗の盛なると共に淡彩なる者を好み、足利時代に入りては即ち何等の彩色を施さず、唯其墨線の精神を喜び古來の壯嚴美に對し甚だ冷淡なる一面を發揮するに至れり。徳川時代に於ては遂に之を平凡なる黄金色を以て俗了し去り、西洋に所謂

パーブルムアートを出せり。

吾人今竊かに將來の釋迦像を考ふるに、若し佛教勃興の日を見るに至らば、禪宗を所依とせる足利時代墨畫の更に新時代化せられたる鑑賞的なる史的釋迦の肖像、若しくは其傳記の事柄を現はしたるものを要求するに至るべきか。知らず讀者果して如何となす。

釋迦像樣式分類表

北魏式釋迦像遺品

釋迦左右藥王藥上像 三軀

大和國生駒郡 法隆寺金堂藏

國寶、金銅製、本尊坐像、推古天皇卅一年の銘あり。釋迦佛高さ四尺五寸。烏佛師作、本書卷末附圖第六圖參照。

釋迦坐像 一軀 大和國高市郡 安居院藏

金銅製。烏佛師作。修補甚し。我國最古の丈六佛。

釋迦文珠像 二軀 大和國 法隆寺藏

國寶、金銅製本尊坐像。高さ五寸五分。脇士壹體闕。推古天皇三十六年の銘あり。審美大觀第十九冊掲載。

釋迦像樣式分類表

釋迦三尊坐像 三軀

東京市 八杉 直氏藏

石彫、彩色、高一尺三寸、六朝時代、背面法華圖あり。東京帝室博物館出陳。本書卷末附圖第七圖參照。

釋迦三尊像 三軀

東京市 伯爵 田中光顯氏藏

金銅製六朝佛、本尊坐像。高光背臺共一尺二寸。永平三年の銘あり。

唐式釋迦像遺品

釋迦三尊像 一面

大和高市郡 壺坂 寺藏

磚製、長方形、本尊床座に倚る。壺坂寺境内發掘

釋迦三尊像 一面

大和國生駒郡 靈山 寺藏

磚製、長方形、本尊床座に倚る。發見地未詳。

釋迦三尊像 壹面

東京帝室博物館藏

磚製、長方形、本尊床座に倚る。大和國壺坂寺發見。

釋迦三尊像 壹面

東京市 高橋健自氏藏

磚製、長方形、本尊床座に倚る。大和國壺坂寺發見。東京帝室博物館出陳。

釋迦像 壹面

東京市 高橋健自氏藏

磚製、長方形、長二寸二分。釋迦像獅子座に倚る。彫刻頗る精巧。大和國壺坂寺發見。東京帝室博物館出陳。

釋迦三尊像 壹面

東京市 高橋健自氏藏

磚製、長方形、破損、本尊床座に倚る、大和國高市郡橋寺境内發見。東京帝室博物館出陳。本書卷末附圖第八圖參照。

釋迦坐像 壹面

東京帝室博物館藏

磚製、磚面を四區に劃し各區に一像を置く、一區竪二寸、横一寸三分。大和國磯城郡、山田寺境内發見。

釋迦三尊像 壹面

東京帝室博物館藏

磚製型、蓮瓣形、竪四寸五分、横三寸一分。大和國高市郡橋寺發見。本書卷末附圖第十圖參照。

釋迦三尊像 壹面

東京帝室博物館藏

磚製、蓮瓣形、竪四寸五分、横三寸五分。清國西安府發見。本書卷末附圖第十一圖參照。

釋迦涅槃像 壹軀

大和國 法隆寺五重塔藏

國寶、塑造。本書卷末附圖第十八圖參照。

釋迦像 壹軀

山城國葛野郡 神護寺藏

國寶、乾漆製、本書卷末附圖第十三圖參照。

釋迦像 壹軀

山城國相樂郡 蟹滿寺藏

銅製、高八尺八寸、本書卷末附圖第十二圖參照。

釋迦普賢文殊像 三軀

大和國 法隆寺上ノ堂藏

國寶、木彫、本尊高七尺五寸五分、金箔押。

釋迦立像 壹軀

山城國嵯峨村 清涼寺藏

國寶、木彫、高五尺二寸五分。本書卷末附圖第十四圖參照。

釋迦立像 壹軀

仙臺市八幡町 龍寶寺藏

國寶、木彫、清涼寺釋迦像と同式。

釋迦立像 壹軀

河内國鬼住 延命寺藏

國寶、木彫、清涼寺釋迦と同様式。寺傳興正菩薩念持佛、日本精華第三輯七一圖参照。

釋迦立像 壹軀

大和國生駒郡 西大寺藏

國寶、木彫、高八尺五寸、清涼寺釋迦像と同様式。

釋迦立像 壹軀

大和國生駒郡 唐招提寺藏

國寶、木彫高五尺。清涼寺釋迦像と同様式。大和國國寶帖第三卷第七圖参照。

釋迦立像 壹軀

京都上京區 淨福寺藏

木彫、清涼寺釋迦と同様式。

釋迦立像 壹軀

大和國室生村 室生寺藏

國寶、木彫高七尺八寸。寺傳弘法大師作。

枕本尊厨子 壹基

高野山 金剛峯寺藏

國寶、木彫、高七寸九分、本尊釋迦坐像、傳弘法大師將來、本書卷末附圖第十六圖参照。

枕本尊厨子 壹基

安藝國佐伯郡 嚴島神社藏

國寶、木彫、金剛峰寺枕本尊厨子と同式。

枕本尊厨子 壹基

高野山 普門院藏

國寶、木彫、金剛峰寺枕本尊厨子と同式。

藤原式釋迦像遺品

釋迦坐像 壹軀 奈良市 興福寺藏

國寶、木彫高三尺五寸五分、傳定朝作。本書卷末附圖第二十圖參照

釋迦坐像 壹幅 山城國高雄 神護寺藏

國寶、絹本着色、豎五尺二寸四分、横二尺八寸二分。本書口繪參照

釋迦文殊普賢坐像 參軀 播磨國加古郡 鶴林寺藏

木彫。

釋迦坐像 壹軀 京都洛東 禪林寺傳法堂藏

國寶、木彫、高三尺。

佛涅槃圖 壹幅 高野山 金剛峯寺藏

國寶、絹本着色、豎横各八尺九寸四分。應德三年の銘あり本書卷末

附圖第二十一圖參照。

佛涅槃圖 壹幅 大阪市 村山龍平氏藏

絹本着色、國華一七三號參照。

佛涅槃圖 壹幅 奈良市 新薬師寺藏

國寶、絹本着色、豎六尺二寸、横五尺五寸、宋畫の影響著し。國寶帖三七九圖參照。

釋迦金棺出現圖 壹幅 山城國乙訓郡 長法寺藏

國寶、絹本着色、豎五尺二寸六分、横七尺五寸五分。精巧を極む。本書卷末附圖第二十二圖參照、東京帝室博物館に模本あり。京都帝室博物館出陳。

佛涅槃圖 壹幅

近江國滋賀郡 園城寺金堂藏

國寶、絹本着色、竪三尺七寸三分、横三尺七寸七分、宋畫の影響著し。

釋迦八相圖 七幅

近江國甲賀郡 常樂寺藏

絹本着色、竪四尺六寸、横二尺五寸、一幅缺、京都帝室博物館出陳

鎌倉式釋迦像遺品

釋迦坐像 壹軀

近江國滋賀郡膳所町 羅漢堂藏

國寶、木彫、安阿彌快慶作。銘、建久八年十月二日。本書卷末附圖第二十三圖參照。

釋迦立像 一軀

尾道市 西國寺藏

國寶、木彫、傳安阿彌快慶作。

釋迦坐像 壹軀

相模國鎌倉郡 明月院藏

木彫。

釋迦三尊像 三軀

筑前國筑紫郡 承天寺藏

國寶、木彫、寺傳慈覺大師作。

釋迦文殊普賢坐像 三幅對

京都市 東福寺藏

國寶、絹本着色、中幅竪四尺七寸五分、横二尺四寸三分。寺傳唐朝吳道子筆。本書卷末附圖第二十六圖參照。京都帝室博物館出陳。

釋迦三尊坐像 三幅對

攝津國川邊郡 清澄寺藏

絹本着色、良全筆、東福寺釋迦三尊と同式。

釋迦坐像 壹幅

東京市 男爵高橋是清氏藏

絹本着色、竪四尺、横一尺九寸五分。傳藤原信實筆、審美大觀第七冊參照。

釋迦文殊普賢像 三幅對

山城國葛野郡嵯峨村 一一 尊 院藏

絹本着色、竪三尺七寸五分、横一尺四寸、寺傳張思恭筆。本書卷末附圖第二十四圖參照。

釋迦六祖像 壹幅

東京帝室博物館藏

絹本着色、竪四尺五寸、横三尺六寸五分。中央に釋迦左右に六祖を配す。

釋迦三尊十六羅漢像 壹幅

東京帝室博物館藏

絹本着色、竪三尺六寸二分、横二尺一寸。傳圓伊法眼筆。

山水中に釋迦三尊十六羅漢を配置せり。

釋迦文殊普賢像 壹幅

東京帝室博物館藏

絹本着色、竪三尺六寸七分、横一尺九寸三分。傳張思恭筆。

釋迦三尊像 壹幅

東京帝室博物館藏

絹本着色、竪四尺一寸三分、横二尺七寸七分。

釋迦三尊十六羅漢像 壹幅

東京帝室博物館藏

絹本着色、竪三尺三寸一分、横一尺三寸三分。傳詫摩良賀筆。

釋迦三尊像 壹幅

東京帝室博物館藏

絹本着色、竪四尺七寸、横一尺八寸六分。

佛涅槃圖 壹幅

京都洛東 禪林寺藏

國寶、絹本着色、竪七尺五寸五分、横五尺一寸五分。寺傳慧心僧都筆。補墨甚し。京都帝室博物館出陳

佛涅槃圖 壹幅

近江國滋賀郡 石山寺藏

國寶、絹本着色、竪九尺二寸五分、横九尺餘。宅磨派、佛涅槃像は開眼なり。

佛涅槃圖 壹幅

京都府愛宕郡田中村 知恩寺藏

國寶、絹本着色、竪五尺九寸、横七尺二寸九分。寺傳李龍眠筆、但し疑なき日本畫なり。

佛涅槃圖 壹幅

相模國鎌倉 圓覺寺藏

國寶、絹本着色、竪八尺六寸五分、横六尺一寸三分。東京帝室博物

館出陳。

佛涅槃圖 壹幅

東京帝室博物館藏

絹本着色、竪五尺九寸四分、横五尺六寸一分。

佛涅槃圖 壹幅

東京帝室博物館藏

絹本着色、竪六尺三寸二分、横三尺九寸九分。

釋迦阿難迦葉像 壹幅

堺市 祥雲寺藏

絹本着色、寺傳土佐光長筆。本書卷末附圖第二十五圖參照。

佛涅槃圖 壹幅

近江國滋賀郡 舍那院藏

國寶、絹本着色、竪七尺二寸、横五尺六寸。

佛涅槃圖 壹幅

紀伊國有田郡

淨教

寺藏

國寶、絹本着色、本書卷末附圖第二十七圖參照。

釋迦立像 壹幅

京都市

妙心寺塔中東海庵藏

國寶、絹本着色、寺傳張思恭筆、

足利式釋迦像遺品

苦行釋迦像 壹幅

山城國愛宕郡

直珠

庵藏

國寶、紙本淡彩、坐像、豎三尺八寸八分、橫一尺七寸六分。傳蛇足筆。一休禪師の題讚あり。本書卷末附圖第二十八圖參照。

出山釋迦像 壹幅

東京市

伯爵 酒井忠道氏藏

紙本淡彩、梁楷筆、國華二二七號及び紺古帖參照。

釋迦文殊普賢坐像 三幅對

山城國紫野

大德寺藏

絹本着色、豎四尺九寸八分、橫二尺九寸、寺傳狩野正信筆、審美大觀第一冊參照。

三聖畫像 壹幅

國華第四號所載

紙本着色、釋尊、孔子、老子を圖す、傳狩野正信筆。

三聖畫像 壹幅

東京市 高田慎藏氏藏

紙本墨畫、釋迦、孔子、老子を圖す。豎三尺六分、橫一尺四寸四分、元信筆、元信畫集第三參照。

釋迦禽鳥圖 參幅對

東京帝室博物館藏

紙本墨畫、豎二尺九寸四分、橫一尺三寸二分五厘。狩野元信筆。

本書卷末附圖第二十九圖參照。

釋迦達磨臨濟畫像 壹幅

京都紫野大德寺塔頭

聚光院藏

紙本墨畫、竪一尺五寸八分、横二尺二寸八分。狩野元信筆。元信畫集第二參照。

釋迦文殊普賢像 壹幅

京都市

禪林寺藏

國寶、紙本淡彩、竪四尺六寸一分。横六尺五寸五分。狩野元信筆。國華第一五五號參照、京都帝室博物館出陳。

清涼寺釋迦像緣起畫卷 五卷

山城國嵯峨

清涼寺藏

紙本着色、竪一尺一寸五分。狩野元信筆。模本全部東京帝室博物館

にあり。

釋迦像 壹幅

大阪市

村山龍平氏藏

紙本淡彩。等春筆。國華第四十六號參照。

釋迦牧牛圖 參幅對

東京市

候爵池田詮政氏藏

紙本墨畫、雪舟筆。國華第十八號參照。

釋迦坐像 壹軀

相州鎌倉

極樂寺藏

木彫、轉法輪の釋迦。

釋迦坐像 壹軀

備前國和氣郡

妙國寺藏

國寶、木彫、延文三年十一月の銘あり。

釋迦立像 壹軀

甲斐國南巨摩郡身延村

本 遠 寺藏

木造、金箔押、玉眼。頭後に作法橋覺慶文永三年五月 日とあり。

釋迦立像 壹軀

東京帝室博物館藏

木彫、金蒔繪、高三尺二寸。

佛涅槃圖 壹幅

東京帝室博物館藏

絹本着色、竪三尺七寸五分、横一尺九寸一分。

佛涅槃圖 壹幅

甲斐國身延山

久 遠 寺藏

絹本着色、讀あり、東阜心越筆。

佛涅槃圖 壹幅

山城國葛野郡梅津村

長 福 寺藏

國寶、絹本着色、筆致頗る精密なり。貞和二年の銘文あり。竪五尺

七寸、横三尺二寸。

釋迦涅槃圖 一幅

近江國蒲生郡

長 命 寺藏

國寶、絹本着色。

徳川式釋迦像遺品

釋迦十六羅漢圖 三幅對

東京市

伯爵 溝口直正氏藏

絹本淡彩、出山の釋迦、竪三尺七寸、横一尺五寸五分。狩野探幽筆。

國華第一八一號參照。

釋迦左右岩屋觀音窟觀音像 東京市 久保昌之氏藏

絹本着色、釋迦雲中蓮座上に坐す。探幽筆。

釋迦文珠普賢像 三幅對 東京市 久保昌之氏藏
絹本着色、釋迦雲中の蓮座上に坐す。探幽筆。

半身出山釋迦左右寒山拾得像 三幅對
德力善雪筆、國華第五三號所載。

釋迦三尊像 一幅 近江國蒲生郡 長命寺藏
國寶、絹本着色。

釋迦三尊像 壹幅 大阪府下 久品寺藏
紙本着色、土藏宗種筆。

出山釋迦像 壹幅 國華第百號所載
紙本淡彩、渡邊華山筆、本書卷末附圖第三十一圖參照。

釋迦坐像 壹軀 服野多美之助氏藏

木彫、金箔押、高三尺、東京帝室博物館出陳、本書卷末附圖第三十圖參照、

樣式未知國寶釋迦像遺品

釋迦三尊像 壹幅 相模國鎌倉 建長寺藏
國寶、絹本着色、傳張思恭筆。

釋迦如來坐像 壹軀 安藝國嚴島町 大願寺藏
國寶、木彫、傳僧行基作。

釋迦如來立像 壹軀 大和國生駒郡 唐招提寺藏
國寶、木彫、厨子入。

釋迦如來立像 壹軀 近江國滋賀郡 延曆寺藏
國寶、木彫。

釋迦如來坐像 壹軀 同上 延曆寺藏
國寶、銅造。

釋迦如來像持鉢釋迦如來 壹幅 同上 西教寺藏

國寶、絹本着色。

釋迦如來坐像 壹軀 同上 來迎寺藏
國寶、木彫。

釋迦三尊十六善神圖 壹幅 同上 來迎寺藏

國寶、絹本着色。

釋迦三尊像 三幅 同上 來迎寺藏
國寶、絹本着色。

釋迦三尊像 壹幅 近江國東淺井郡 寶巖寺藏
國寶、絹本着色。

釋迦三尊二十五菩薩來迎圖 壹幅

福井市綠町 安養寺藏

國寶、絹本着色、寺傳僧源信筆、京都帝室博物館出陳。

釋迦如來坐像 壹軀 近江國高島郡 保福寺藏
國寶、木彫。

釋迦如來坐像 壹軀 伊豫國溫泉郡 大寶寺藏
國寶、木彫。

誕生釋迦立像 壹軀 奈良市 東大寺藏
國寶、金銅製、灌佛盤一面添。

釋迦如來坐像 壹軀 奈良市 興福寺藏
國寶、木彫、金堂安置。

釋迦如來立像 壹軀 奈良市 興福寺藏
國寶、木彫。

誕生釋迦立像 壹軀 奈良市 法隆寺藏
國寶、金銅製。

釋迦三尊像 壹幅 播摩國明石郡 太山寺藏
國寶、絹本着色。

釋迦三尊像 三軀 播摩國加古郡 鶴林寺藏
國寶、木彫。

釋迦三尊十六羅漢像 五幅 播摩國揖保郡 斑鳩寺藏
國寶、紺紙金泥。京都帝室博物館出陳（鎌倉時代）。

釋迦如來坐像 壹軀 同上 斑鳩寺藏
國寶、木彫。

釋迦如來坐像 壹軀 淡路國三原郡 國分寺藏
釋迦像樣式分類表

國寶、木彫。

釋迦三尊像 壹幅 備中國上房郡 賴久寺藏

國寶、絹本着色。

釋迦如來坐像 壹軀 山城國愛宕郡 來迎寺藏

國寶、木彫。

釋迦如來立像 壹軀 河內國南河内郡 延命寺藏

國寶、木彫。

釋迦如來坐像 壹軀 近江國滋賀郡 石山寺藏

國寶、銅製。

誕生釋迦立像 一軀 近江國甲賀郡 善水寺藏

國寶、金銅製。

釋迦如來坐像 一軀 奈良市 西福寺藏

國寶、木彫。

釋迦如來坐像 一軀 奈良市 稱名寺藏

國寶、木彫。

誕生釋迦佛立像 一軀 京都市溝前町 大報恩寺藏

國寶、木彫。

釋迦如來立像 一軀 同上 大報恩寺藏

國寶、木彫。

釋迦像樣式分類表

釋迦如來立像 一軀 山城國嵯峨 二尊 院藏
國寶、木彫。

釋迦如來轉法輪圖 一幅 山城國宇治郡 勸修寺藏
國寶、繡曼荼羅。

佛涅槃圖 一幅 尾張國海東郡 甚目寺藏
國寶、絹本着色。

佛涅槃圖 一幅 讚岐國大川郡 與田寺藏
國寶、絹本着色。

涅槃佛像 一軀 讚岐國三豐郡 觀音寺藏
國寶、木彫。

佛涅槃圖 一幅 岡山縣大宮村 遍明院藏
國寶、絹本着色。

佛涅槃圖 一幅 備中國小郡 安養院藏
國寶、絹本着色。

佛涅槃圖 一幅 名古屋市 寶生院藏
國寶、絹本着色。

佛涅槃圖 一幅 尾張國中島郡 妙興寺藏
國寶、絹本着色。

佛涅槃像 一軀 長野市 世尊院藏
國寶、銅製。

佛涅槃圖 三幅 大和國宇陀郡 宗祐寺藏
國寶、絹本着色。

佛涅槃像 一軀 大和國高市郡 岡寺藏

釋迦像 一面 紀伊國海草郡 總持寺藏

國寶、額裝。

釋迦十六善神像 一幅 京都市洛東 禪林寺藏

國寶、絹本着色。

釋迦十六善神像 一幅 京都市洛東 南禪寺藏

國寶、絹本着色。

釋迦如來立像 一軀 相模國鎌倉町 極樂寺藏

國寶、木彫。

釋迦如來坐像 一軀 同上 極樂寺藏

國寶、木彫。

釋迦十六善神像 一幅 大津市 園城寺藏

國寶、絹本着色。

釋迦如來坐像 一軀 近江國甲賀郡 常樂寺藏

國寶、木彫。

釋迦如來坐像 一軀 近江國甲賀郡 長壽寺藏

國寶、木彫。

釋迦如來立像 一軀 山城國宇治郡 三室戸 寺藏
國寶、木彫。

釋迦如來坐像 一軀 山城國久世郡 地藏 院藏
國寶、木彫。

釋迦如來坐像 一軀 近江國高島郡 興聖 寺藏
國寶、木彫。

涅槃圖 一幅 丹波國何鹿郡 正曆 寺藏
國寶、絹本着色。

赤衣釋迦如來十六弟子像 三幅 京都市 禪林 寺藏

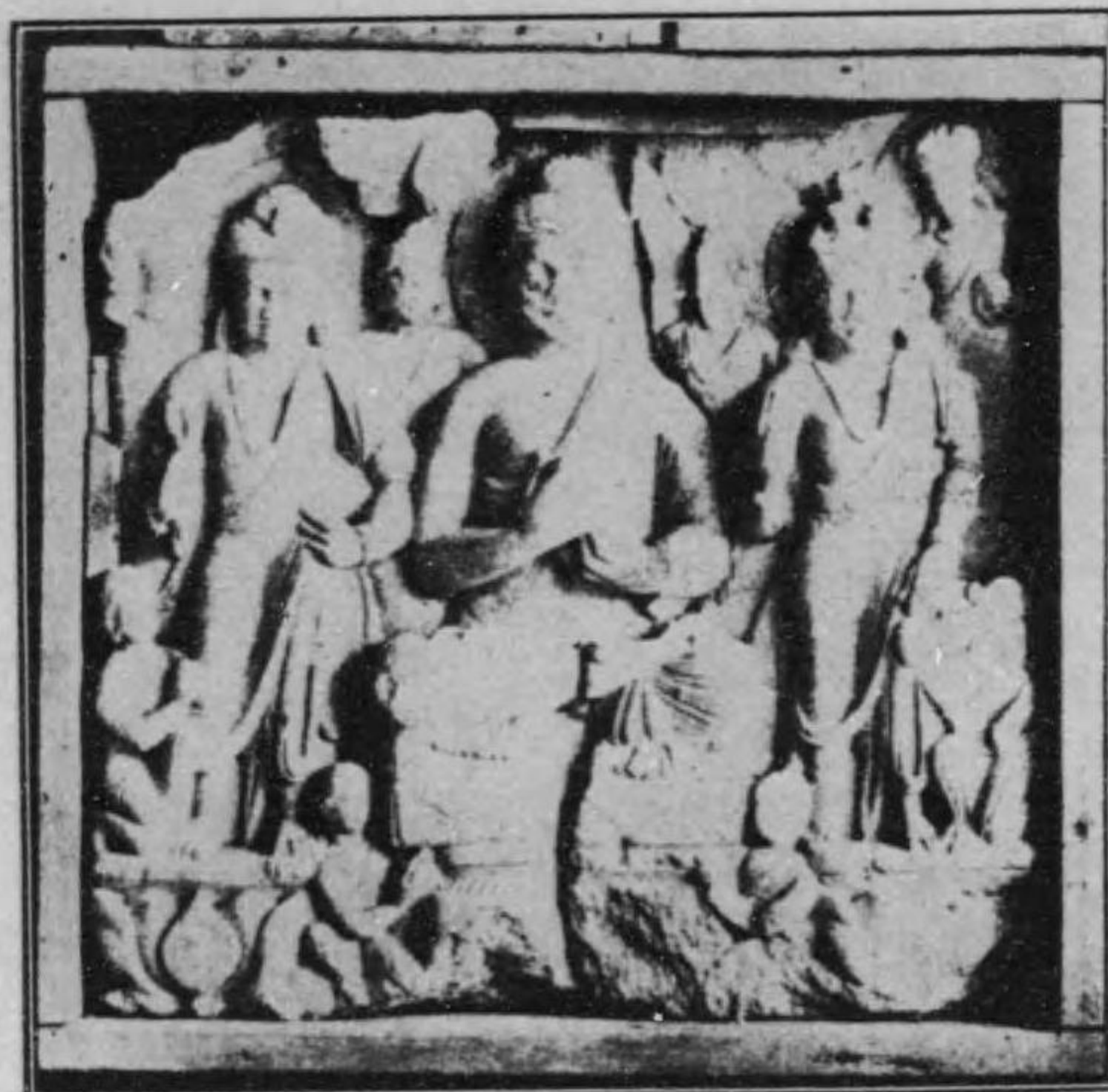
國寶、絹本着色。寺傳張恩恭筆。



第一圖 カンノダラ 健陀羅式釋迦立像

パーヤエス氏印度古代佛教遺物寫真集所載

第二圖健陀羅式釋迦坐像



バーチエス氏印度古代佛教遺物寫真集所載

第三圖健陀羅式釋迦涅槃像

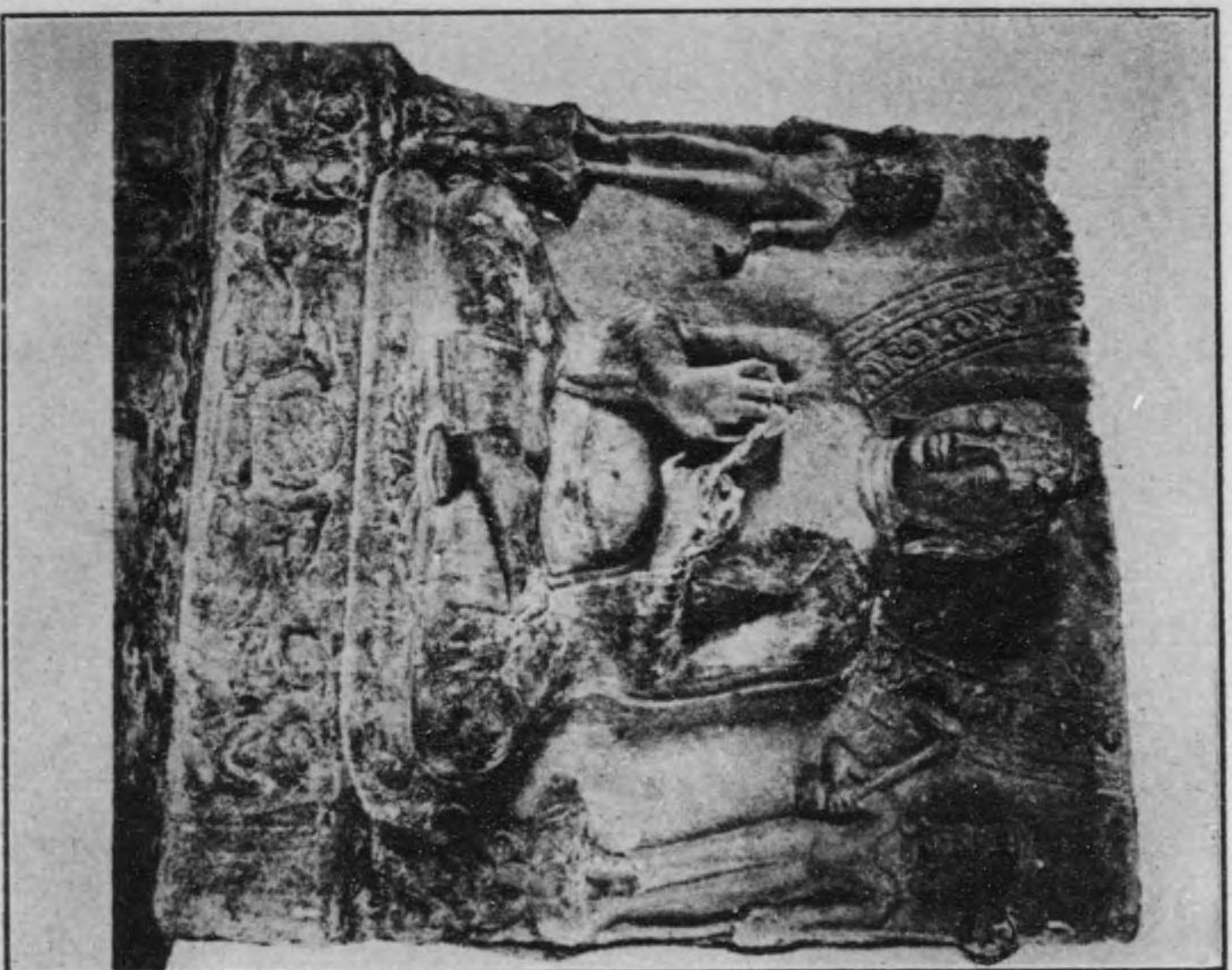


同上寫真集所載



第四圖印度式釋迦立像 印度サールナールに發見

バリエズ氏印度古代佛教遺物寫真集所載



第五圖印度式釋迦坐像 同上發見

同上寫真集所載



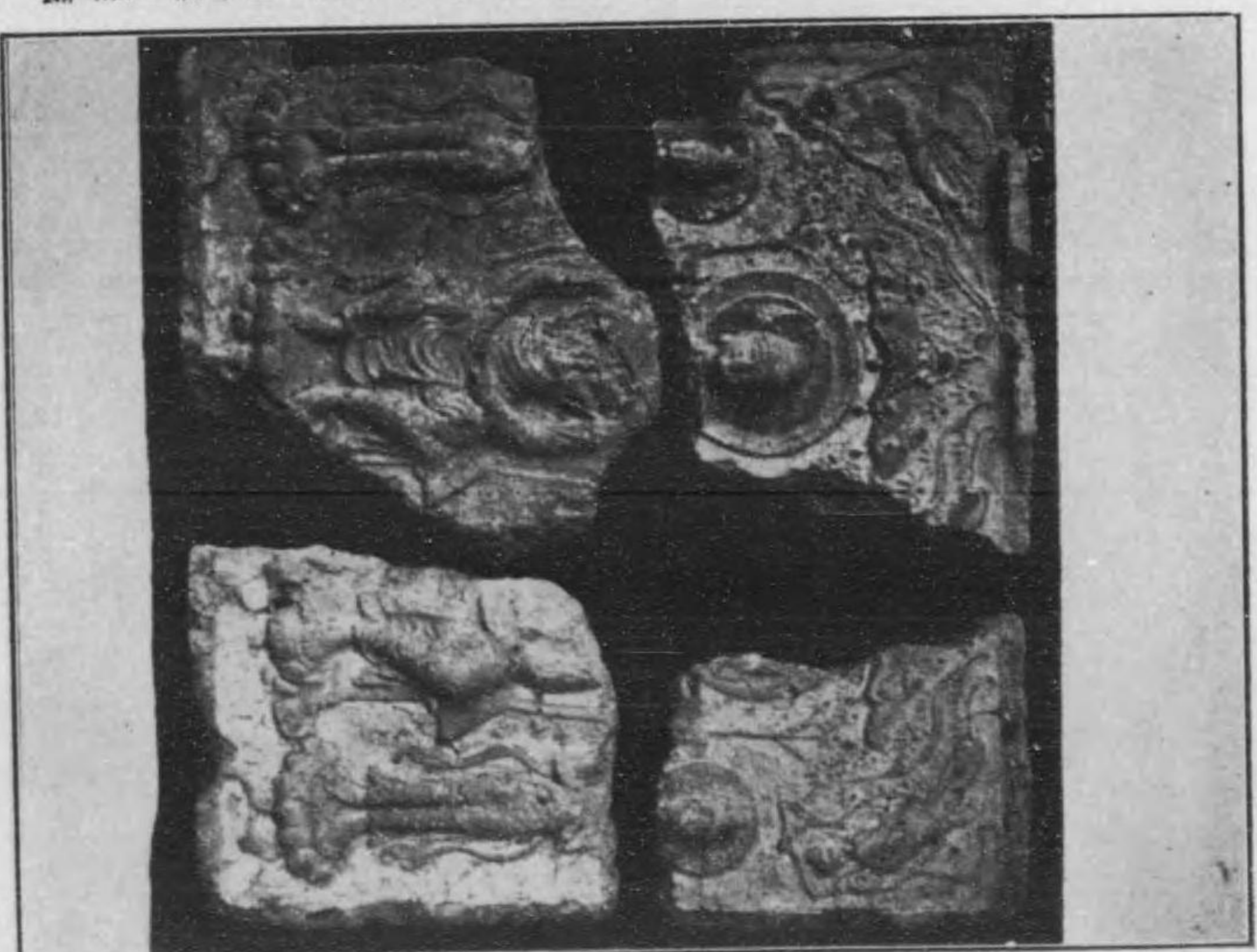
第六圖北魏式金銅釋迦三尊像

大和國法隆寺金堂安置



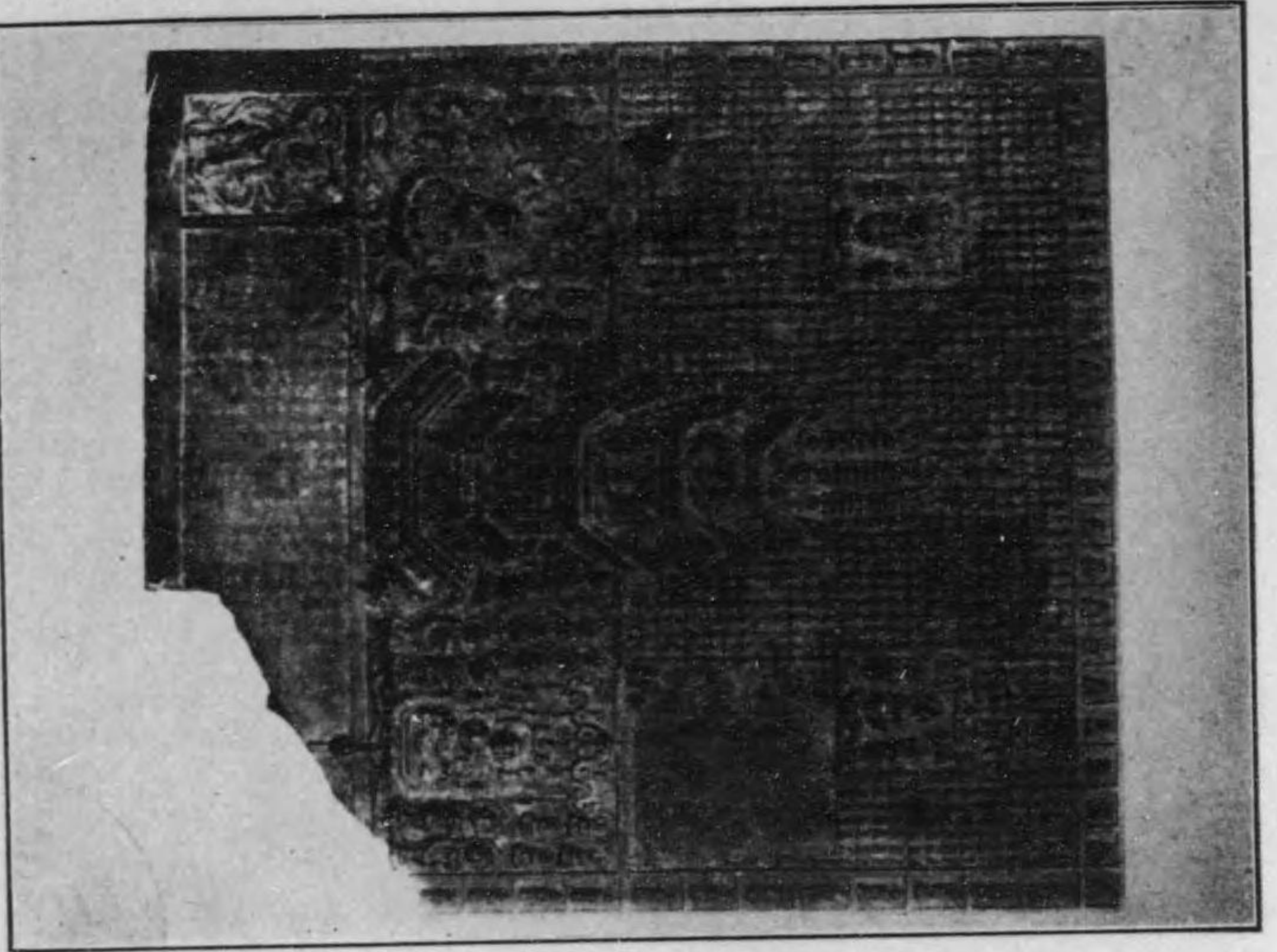
第七圖支那六朝時代石彫釋迦三尊像

東京帝室博物館出陳 八杉直氏所藏



第八圖唐式碑製釋迦三尊像 大和國高市郡橋寺發見

東京帝室博物館出陳 高橋健自氏所藏



第九圖唐式金銅千體釋迦押出佛

奈良帝室博物館出陳 大和國磯城郡長谷寺所藏



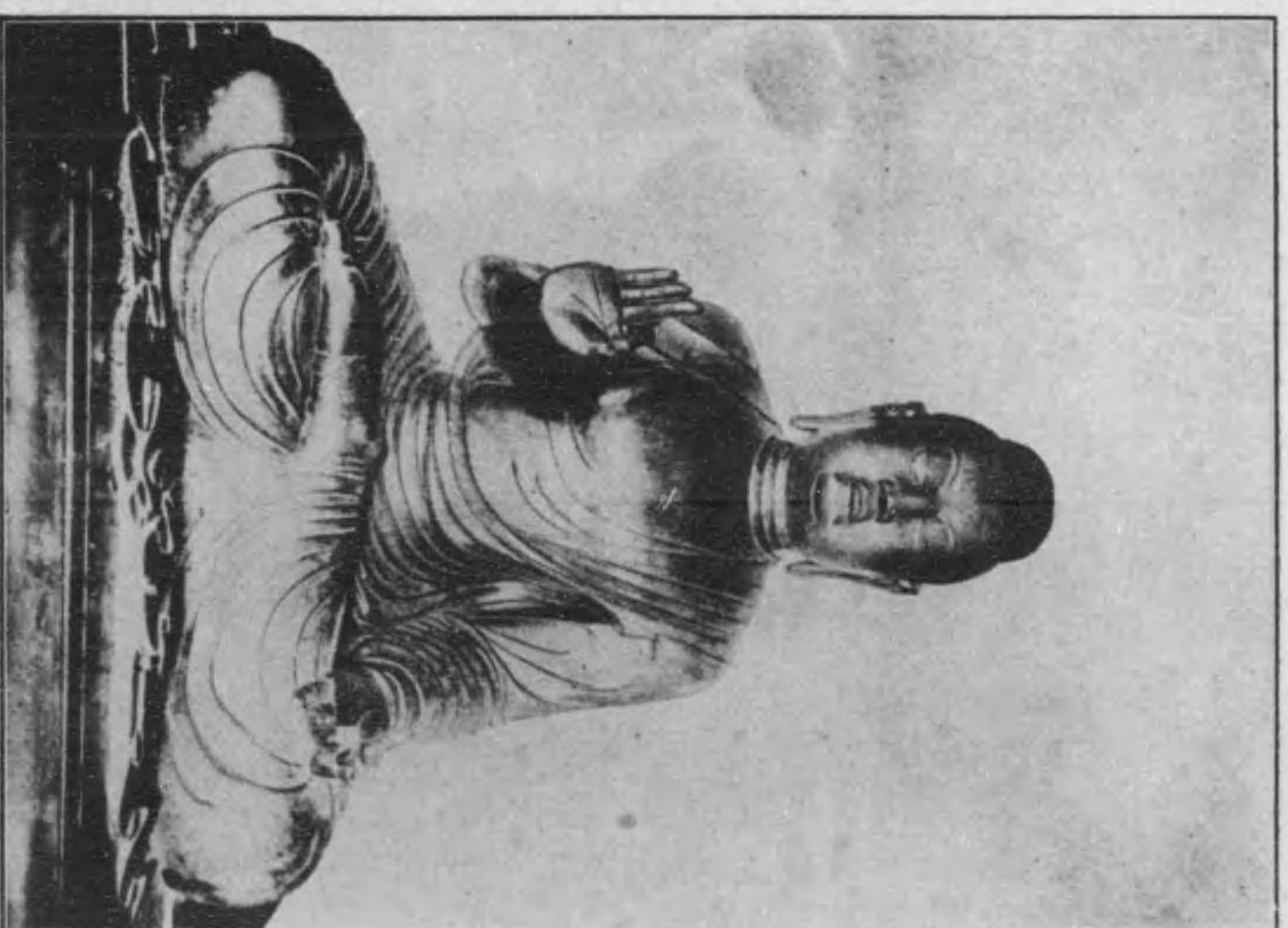
第十圖 唐式磚製釋迦三尊像型 大和高市郡橋寺發見

東京帝室博物館所藏



第十一圖 唐式磚製釋迦三尊像 清國阿安府發見

高橋健白氏所藏



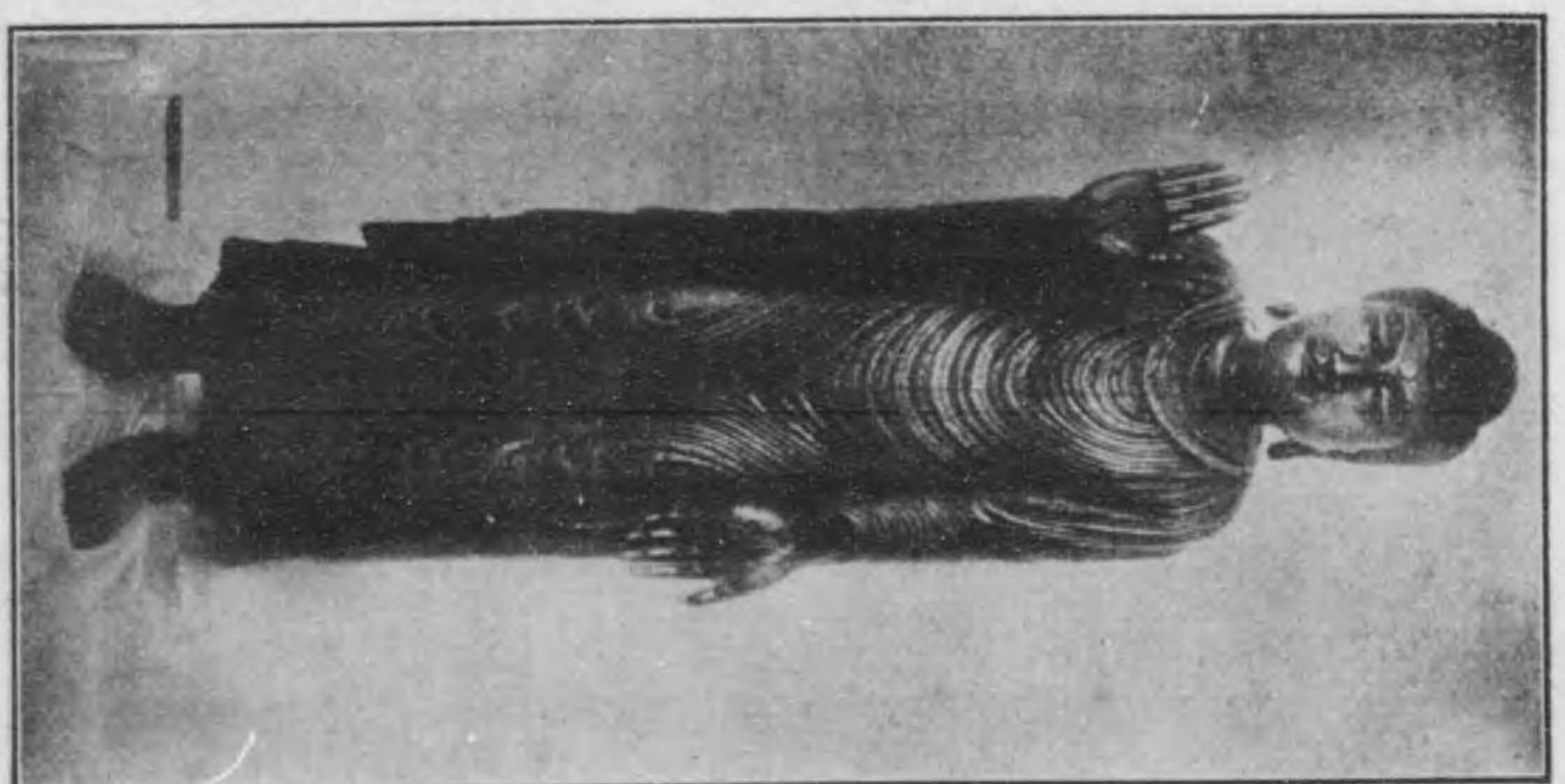
第十二圖唐式金銅釋迦坐像

山城國相樂郡 蟹滿寺藏



第十三圖唐式乾漆釋迦坐像

山城國葛野郡 神護寺藏



第十四圖唐式木影釋迦立像

山城國嵯峨清涼寺所藏



第十五圖印度式釋迦立像

度印アゾアレンタ岩窟第十號ノ柱ニ施カレタル壁畫

像坐迦釋尊本枕彫木式唐圖六十第



高野山
金剛峯寺所藏

像立迦釋彫木式唐圖七十第



大和國室生村
室生寺所藏

像槃涅迦釋像塑式唐圖八十第



大和國法隆寺五重塔內安置

部一ノ經果因在現去過色著本紙圖九十第



山城國醍醐寺所藏

圖ノルモ坐跌伽結テケ受ヲ草軟リヨ祥吉迦釋

像坐迦釋彫木式原藤作朝定圖十二第



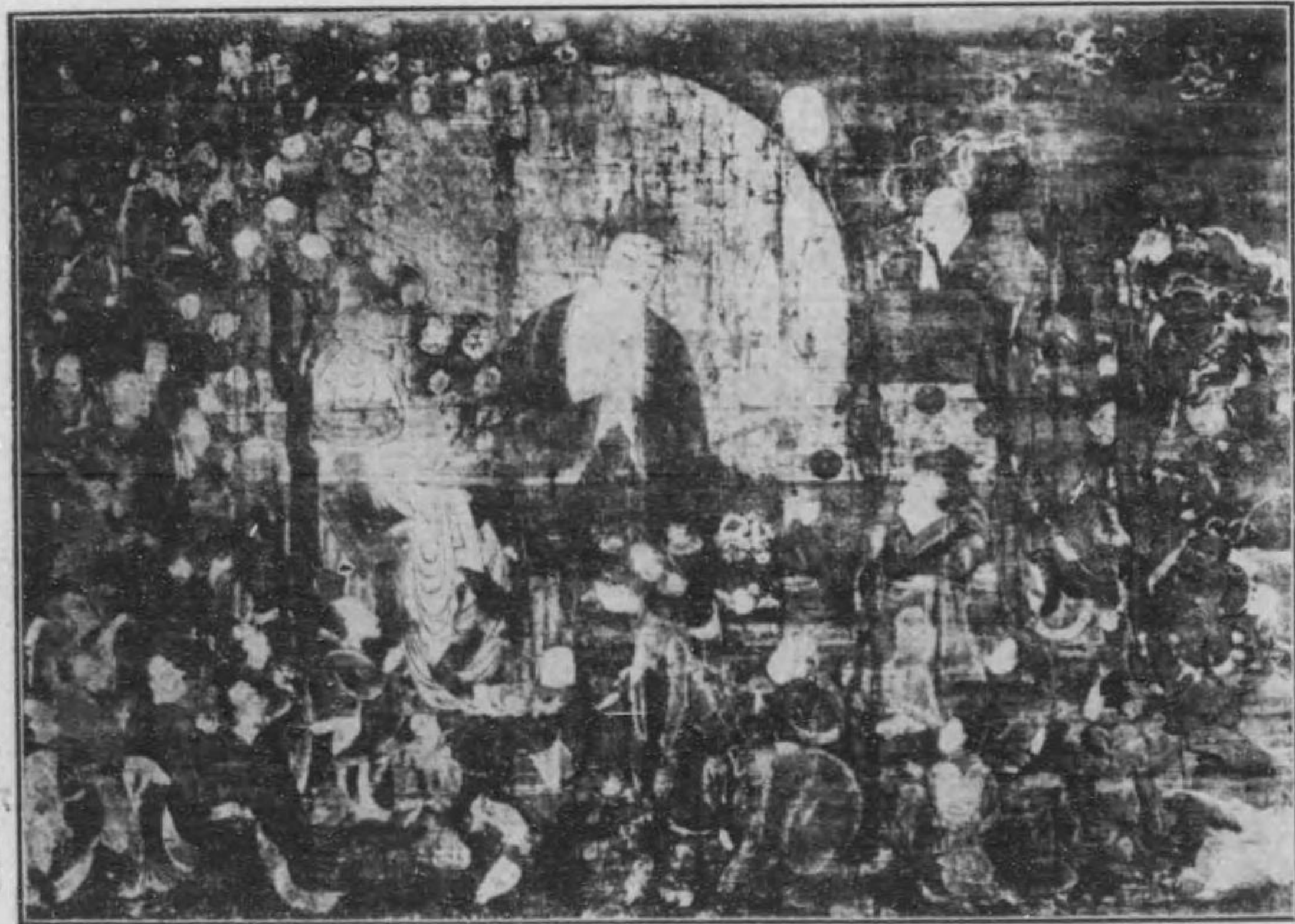
置安堂圓北寺福興市良奈

第二十一圖藤原式絹本着色釋迦涅槃圖



高野山 金剛峯寺藏

第二十二圖藤原式絹本着色釋迦金棺出現圖

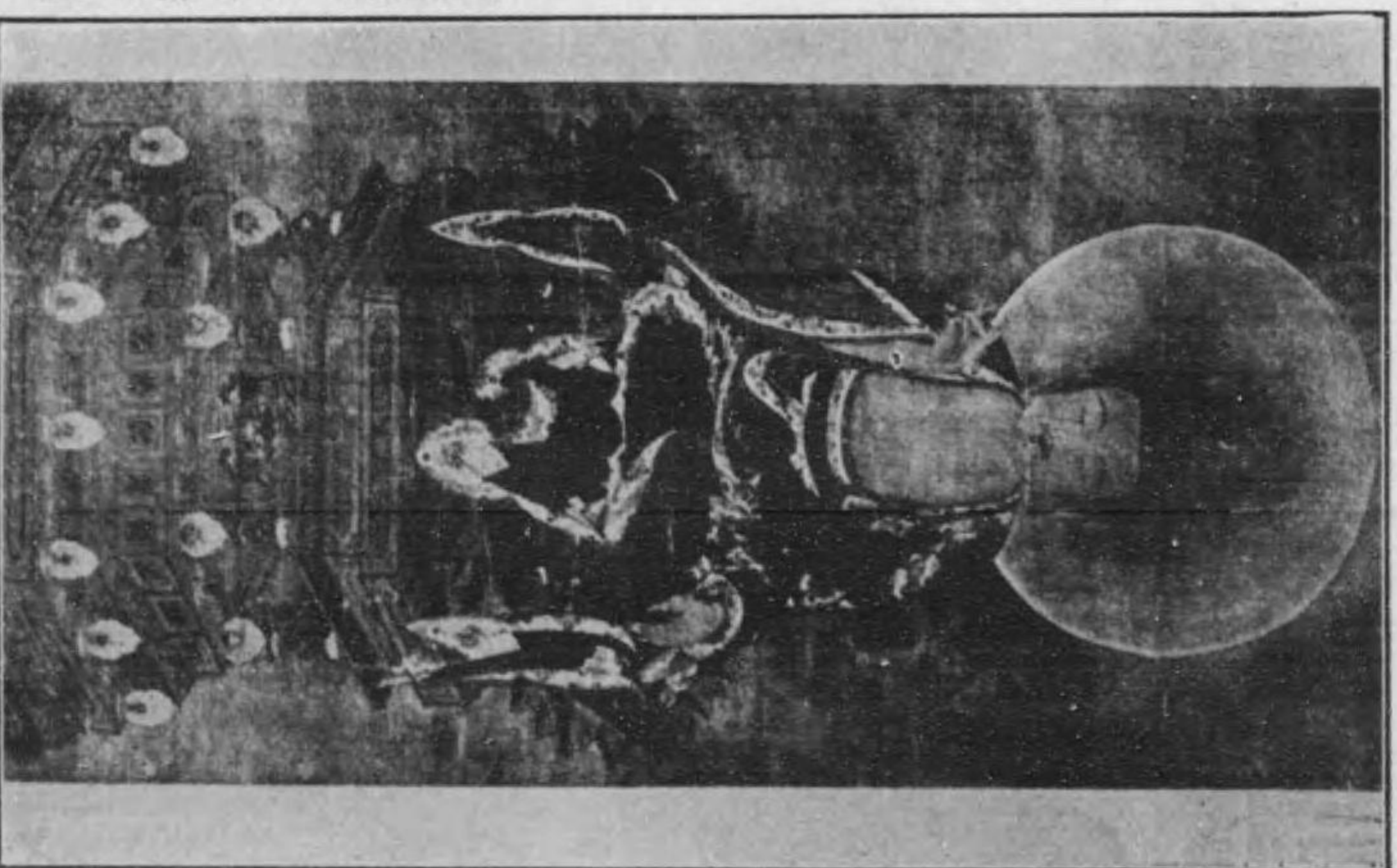


山城國乙訓郡 長法寺所藏

第 三 十 二 圖 快 慶 作 鎌 倉 式 木 彫 釋 迦 坐 像

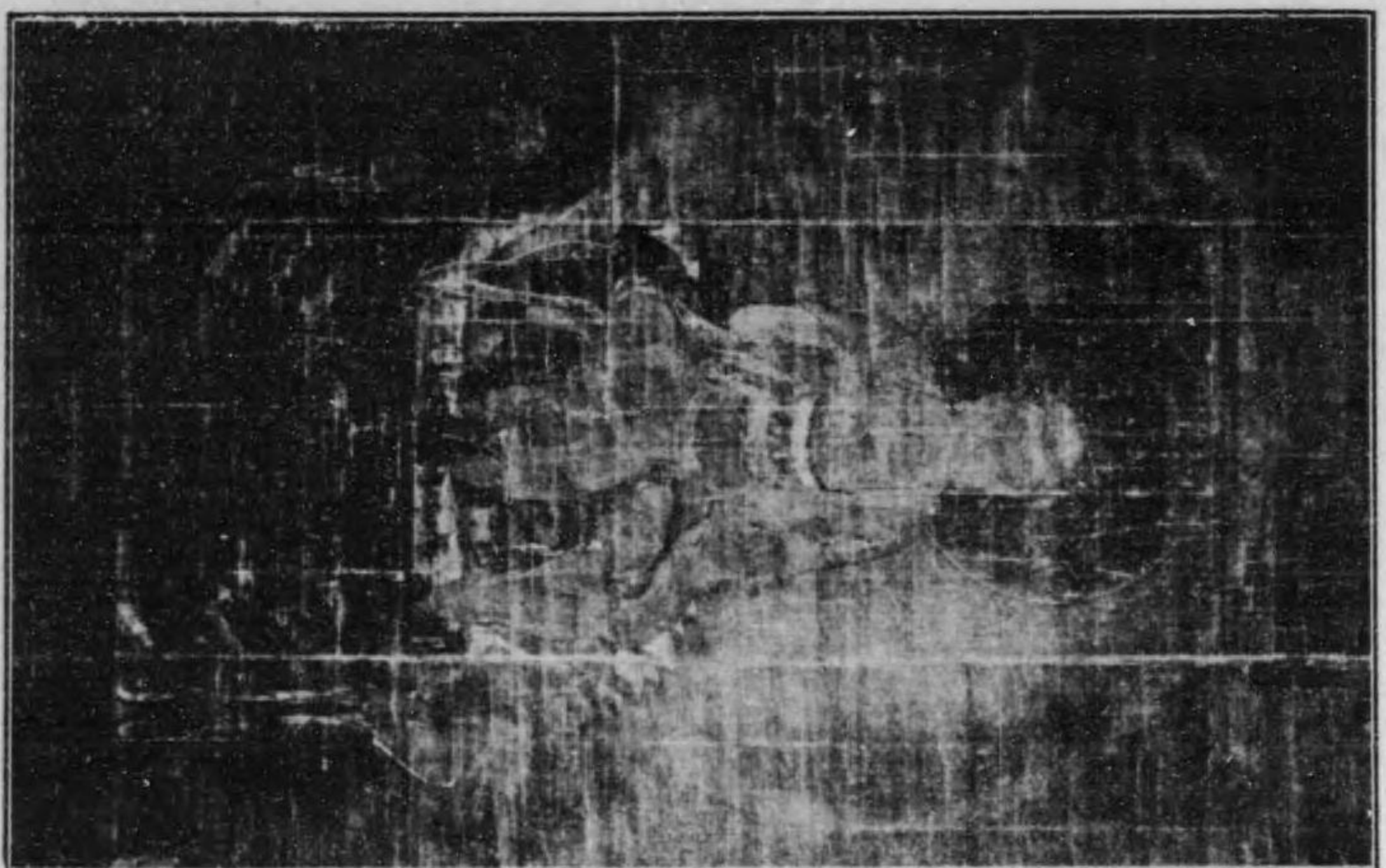


近江國滋賀郡膳所町 羅漢堂所藏



第二十四圖宋元式絹本著色釋迦坐像

山城國嵯峨二尊院所藏



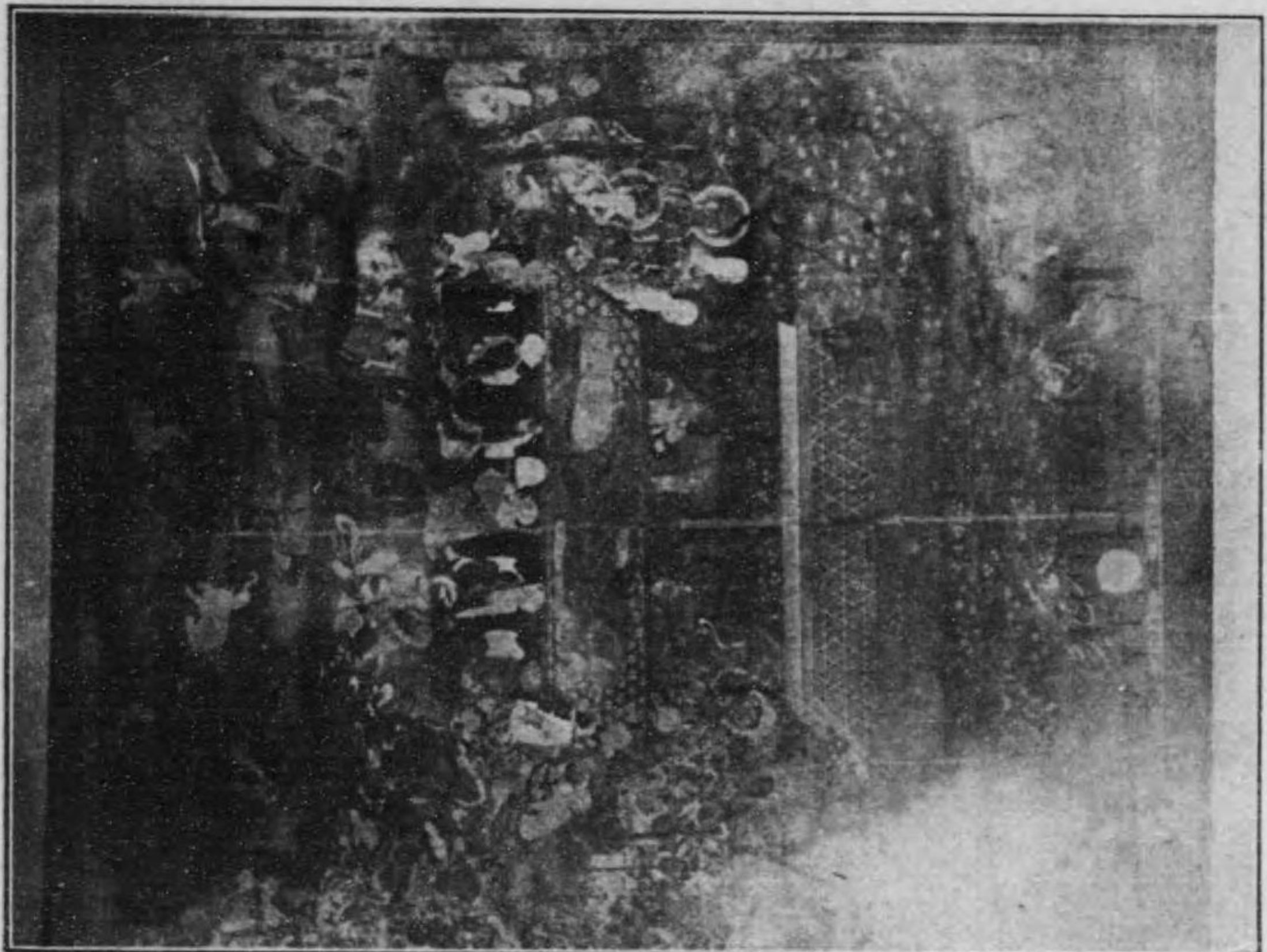
第二十五圖鎌倉式絹本著色釋迦阿難迦葉像 傳光長筆

界市祥雲寺所藏



第二十六圖鎌倉式絹本着色釋迦坐像

京都洛東 東福寺所藏



第二十七圖鎌倉式絹本着色釋迦涅槃圖

紀伊國有田郡 淨教寺所藏

第二十八圖蛇足筆足利式紙本淡彩苦行釋迦像



康正觀音抄一在法苑
剛慧合字注
右題者即此像元
天下祖師飲象子
信道于天女釋迦
苦行是佛祖玄旨
六年創筆微骨髓

山城國愛宕郡真珠庵所藏

對幅三圖 鳥禽 迦釋 畫墨本絹式利足筆信元圖九十二第



東京帝室博物館所藏



第三十圖德川式木彫金箱押釋迦坐像

東京帝室博物館出陳 股野多美之助氏所藏



第三十一圖渡邊華山筆德川式紙本墨畫出山釋迦立像

國華第百號所載

索引

足利式苦行釋迦像—等春筆	一八〇	アチアンの壁畫	五一	印度式釋迦立像—サールナリス發見	四一
足利式苦行釋迦像—蛇足筆	一七九	アチアンの壁畫—清涼寺の釋迦像と酷似せる	一〇八	の	
足利式釋迦像研究の範圍	一七六	アリヤン人種初めて印度に入る	二	印度式釋迦坐像—サールナリス發見	四七
足利式釋迦像の遺品	二一四	アリヤン人種の根源地	二	印度式と唐式	一九
足利式釋迦像と時代の風潮	一八五	アリヤン人の思想變化して悲觀歴世的となる	四	印度佛教藝術の三大時期	五一
足利式釋迦畫像	一七八			印度佛教時代の佛教觀	五〇
足利式釋迦像—木彫	一七七			印度佛教藝術參考書	五五
足利式釋迦三尊像—傳狩野祐勢筆	一八一			妹子を隋に遣る	八九
足利式釋迦禽鳥圖—狩野元信筆	一八二	石山寺の鎌倉式涅槃圖	一六八		
足利式釋迦達摩臨濟畫像—元信筆	一八三	嚴島神社の枕本釋迦坐像	一〇五	う	
足利式釋迦孔子老子畫像—元信筆	一八四	院畫の由來	一六五	印度王梅檀の釋迦像を造る	三〇
足利式釋迦文殊普賢畫像—元信筆	一八五	印度アリヤン人種の信仰	二		
足利式釋迦立像—東京帝室博物館の	一七七	印度土着の迷信	四	え	
足利式釋迦立像—覺慶作	一七八	印度人の見たる水上の蓮華	一七	繪を畫き像を彫みし高僧	二七
足利時代の彫刻	一七七	印度哲學者の教育法	四三	圓覺寺の鎌倉式涅槃圖	一九
阿育王	一七八	印度式繪畫—法隆寺金堂の橘夫人厨子須彌座に畫かれたる	一六	延命寺の釋迦立像	一〇
	七	印度式釋迦立像	四一	繪卷物に現はれたる信仰	五四
				繪卷物の發達	七三

索引

釋迦像の研究

未來厭世教の起りし原因	一五六	龍寶寺の釋迦立像	一〇九
實生寺の釋迦立像	一一〇	真全筆釋迦坐像	一六七
木彫唐式釋迦像	一〇四	藍毘尼園の娑羅樹林と釋迦の降誕	一六
木彫藤原式釋迦像	一二七	蓮華	一七
木彫鎌倉式釋迦像	一六〇	蓮瓣形の釋迦像	九二
木彫足利式釋迦像	一七七	蓮華と天地創造説	一八
山田寺發見の小形磚佛	九三	羅馬の古墳に畫かれたる卍字紋	二七
融通念佛宗と淨土宗	一五六	波邊華山筆徳川式出山釋迦像	一九二
六朝佛を有する我國發見の鏡鑑理想の釋迦像	一九四		
輸寶と祈	三五		
輸寶は輪廻轉生の標象	二四		
	二四		

大正十一年七月一日印刷
大正十一年七月十日發行

「釋迦像の藝術史的研究」
定價金貳圓五拾錢



著者 津田敬武
東京市神田區通神保町八番地
發行者 田村徳義
東京市下谷區御徒町二ノ二四
印刷者 石野觀山
東京市下谷區御徒町二ノ二四
印刷所 福壽印刷株式會社

發行所
發賣所

東京市神田區通神保町八
電話神田一六一七番
東京市神田區表神保町一
電話神田四〇六一番

言誠社書店
會社 三星社書店
振替東京四九三三四番
振替東京四七〇一三番

324
241

終

